

学校の歴史「資料室」に300点



校舎の空き教室に2001年にオープンしたのが、旧制中学時代からの資料を展示する「豊陵資料室」。同窓会の豊陵会が80周年を記念して開設した。

資料室には、1925年に皇居前



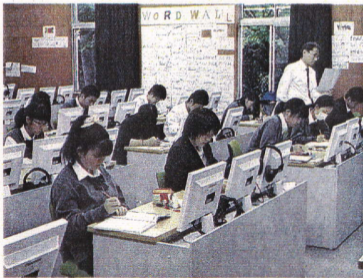
で撮影された修学旅行中の生徒たちの集合写真のほか、試験用紙や教材などを印刷するために使った謄写機、運動部の優勝旗など約300点を展示。大正から現代までの歴史を振り返ることができる。

管理している同窓生の浅井由彦さん(82)は同校の元日本史教諭で、「昭和史や教育史、郷土史としても学べる。多くの人に見てもらいたい」と話す。一般の見学も可能。問い合わせは豊陵会事務局(06・6849・4973)へ。

希望者を対象に英語の特訓



今年度から1年生の希望者を対象に始めたのが、課外授業の「TOEFL(トーフル)コース」。英語教諭ら4人が「リスニング」や「スピーキング」などを分担し、受験に向けて熱心に指



導している。

TOEFLは英語圏の大学などへの留学希望者の英語力を測る試験で「読む」「聴く」「書く」「話す」の4技能が求められる。生徒に生きた英語力を身につけてもらおうとコースを設け、約20人が参加する。

週4日、放課後の30分から1時間の特訓で、3年生の夏まで続ける。受験は2年生からの予定だ。大橋佳奈さん(1年)は「東京五輪があるので、英語で会話できるようになりたいと思って参加した。内容は難しいが、頑張りたい」。

古典の名著 全員で群読合戦



平家物語をいかに情感豊かに読み上げるか。クラス対抗で発声の巧みさを競う「群読合戦」に、国語教師らが取り組んでいる。

参加するのは1年生で、毎年



11月中旬に武道場で開かれる。古文と漢文の独自教材「豊高古典」に載せた、平家物語の一節「木曾の最期」をクラス全員で読む。

担当の綾城幸則教諭(55)は「古典の魅力を体で味わって欲しい」と群読の狙いを話す。合戦に向け、休み時間などを利用して3週間にわたって練習する。発声のタイミングや表現力が優れたクラスが表彰される。

昨年度の優勝クラスでリーダー役を務めた江原愛実さんと藤田瑞菜さん(2年)は「みんなの仲が深まり、古典が身近になりました」。